

愛媛県はなぜ日本有数のみかん産地か

栽培は江戸時代から

愛媛県のみかんの栽培は、江戸時代の終わりごろ、宇和島市吉田町で伊勢まいりや四国巡礼で手に入れたみかんの苗木を植えたのがはじまりとされています。

愛媛県は一年をとおして温暖で晴れの日が多く、畑の土も水はけがよく、栄養分を多くふくんでいることなど、おいしいみかんを作る良い環境に恵まれています。このため、明治維新をへて1900年ごろから熱心に栽培する農家がふえはじめ、1968年にはみかん生産量が38万トン(年間)となり、静岡県をぬいて日本一になりましたが、2004年(平成16年)には、新しいかんきつへの植えかえがすすみ、生産量が少なくなってきたことから、和歌山県にぬかれ、現在では二位となっています。しかし、みかんから転換された品種などを含めたかんきつ全体の量は、現在でも全国一位のままです。

県別のみかん生産量(平成25年産)

順位	県名	生産量(t)	順位	県名	生産量(t)	順位	県名	生産量(t)
1	和歌山	168,900	9	福岡	26,500	17	宮崎	13,000
2	愛媛	137,800	10	神奈川	24,600	18	山口	12,700
3	静岡	121,800	11	三重	22,000	19	高知	7,340
4	熊本	91,600	12	大分	16,200	20	兵庫	2,460
5	長崎	60,900	13	香川	15,900	21	千葉	1,440
6	佐賀	53,000	14	鹿児島	15,700	その他の県		5,460
7	広島	42,300	15	大阪	14,200	全国合計		895,900
8	愛知	28,200	16	徳島	13,900			

農林水産省「農林水産統計」より

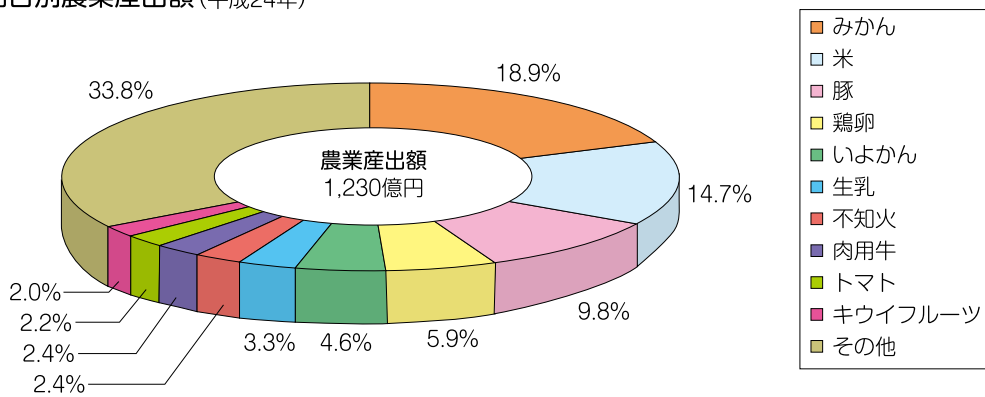
三つの太陽

愛媛県のなかでも、海岸線にそった傾斜地と瀬戸内の島々は、おいしいみかんの産地として有名です。傾斜地では、西宇和地域に代表される石垣に覆われた段々畑が多くみられます。石垣の石は熱が冷めにくいため、暖かさを保つこともできます。空からふりそそぐ光、海からの反射光、石垣からの輻射熱(照り返し)、この「三つの太陽」をいっぱい浴びて育てた愛媛のみかんだからとてもおいしいのです。

かんきつ王国

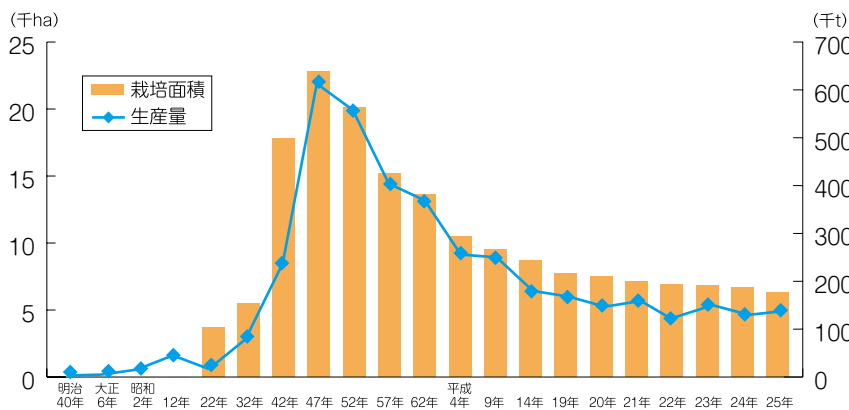
日本を代表する農産物は米ですが、愛媛県ではみかんの生産額が第一位になっています。それだけに、愛媛県の人たちはみかん栽培をほこりに思い、みんなで応援していこうという気持ちにあふれています。みかんにいよかんやぽんかん、不知火(デコポン)など、県内で栽培されている種類のかんきつを合計した生産量は平成23年産で約26万トンと全国一位となっています。このように愛媛県は、他のかんきつ生産県と比較して、みかんのほかに多くの種類のかんきつ類を栽培して、生産量が全国一位であることから、かんきつ王国とよばれています。

愛媛県品目別農業産出額(平成24年)



農林水産省「生産所得統計」より

愛媛県におけるみかん生産の移り変わり



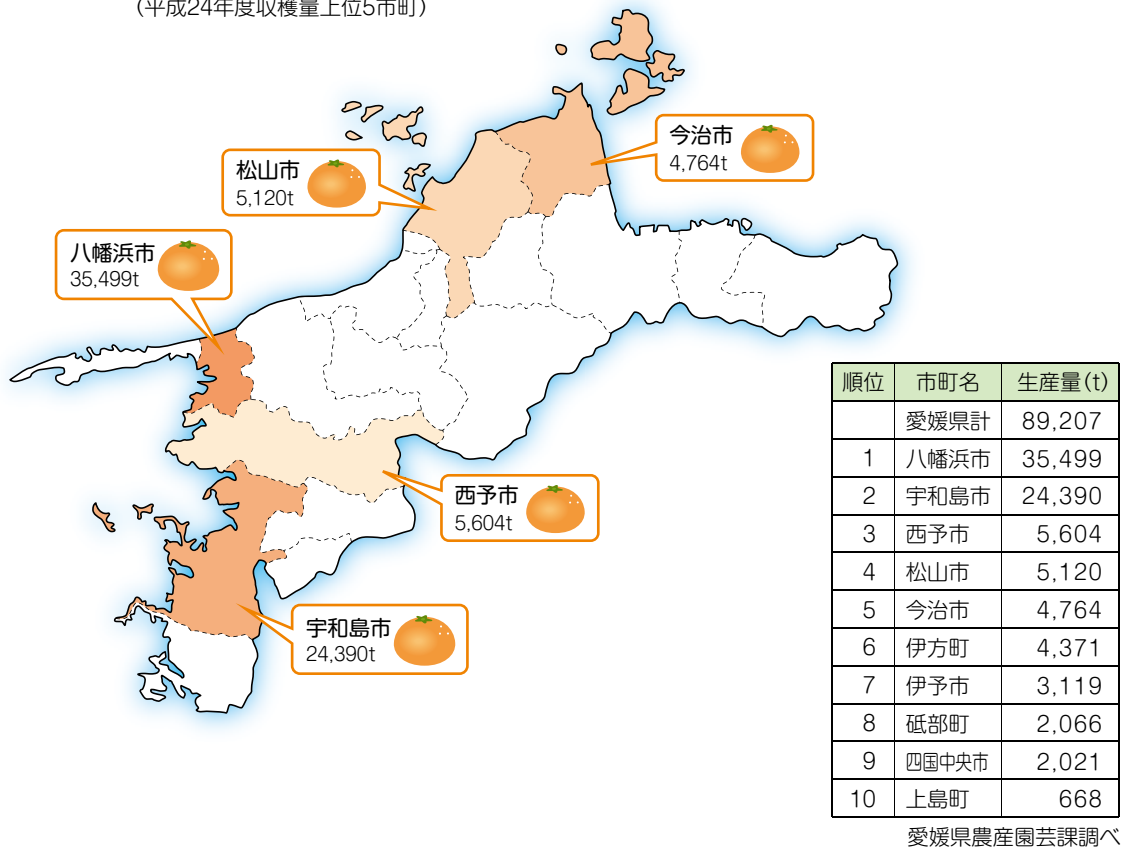
〔農商務統計表・農商省統計表・農林省統計表・農林水産省統計表〕より

主な市町の
うんしゅうみかん
栽培状況(平成24年産)

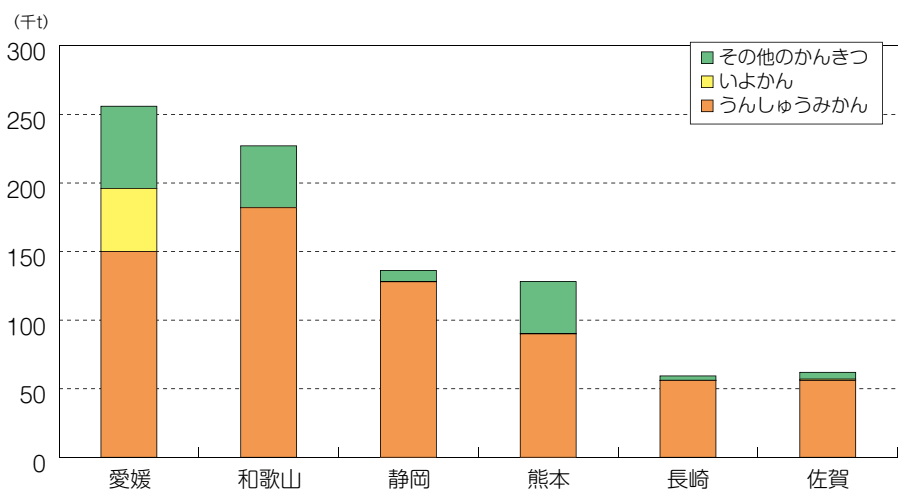
市町名	栽培面積(ha)
宇和島市	1,655
八幡浜市	1,291
今治市	1,105
松山市	448
西予市	405
伊方町	269
伊予市	138
大洲市	130
四国中央市	106
砥部町	93

愛媛県農産園芸課調べ

愛媛県内のみかんの主要な生産市町
(平成24年度収穫量上位5市町)



主なかんきつ生産県のかんきつ生産量(平成23年産)



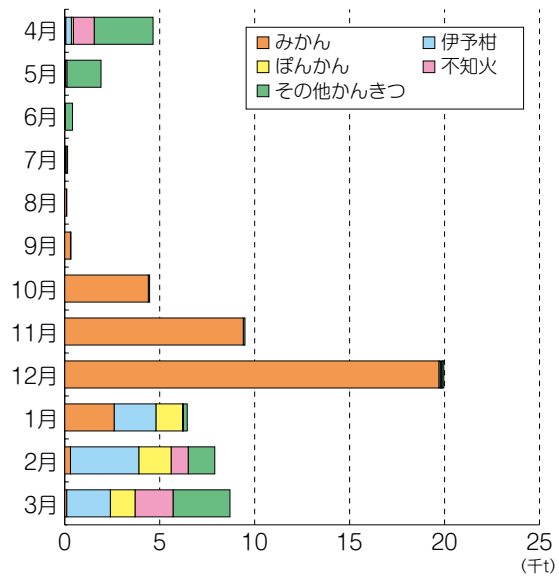
農林水産省「農林出荷統計」「特産果樹生産動態等調査」より

いつでも、どこでも食べられる

愛媛みかんは10月から12月にかけてたくさん出回りますが、早めに実るものや遅れて実るもの、あるいはハウス栽培などにより、4月とその前後を除けばいつでもスーパーやくだもの店にいらんでいます。また、1月から5月にかけては、いよかん、ぼんかん、不知火(デコポン)、せとか、清見などが出荷されており、愛媛のかんきつを1年中食べることができます。

愛媛みかんは、ほとんどの地域に出荷されています。地域別にみると関東がもっとも多く、全体の約80パーセントとなっています。また、遠くは北海道にも出荷されています。

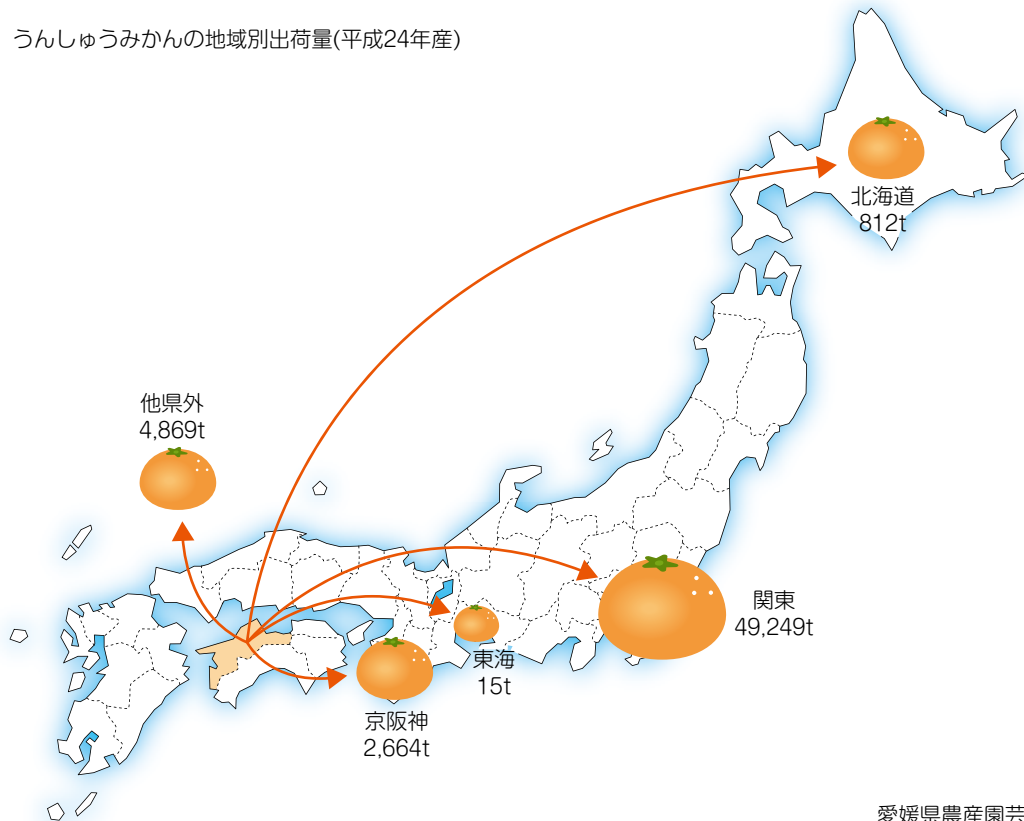
愛媛県産かんきつの月別出荷量(平成24年産)(京浜市場)



全国果実生産出荷安定協議会
「平成24年産柑橘販売年報」より

みかんの地域別出荷量

うんしゅうみかんの地域別出荷量(平成24年産)



愛媛県農産園芸課調べ